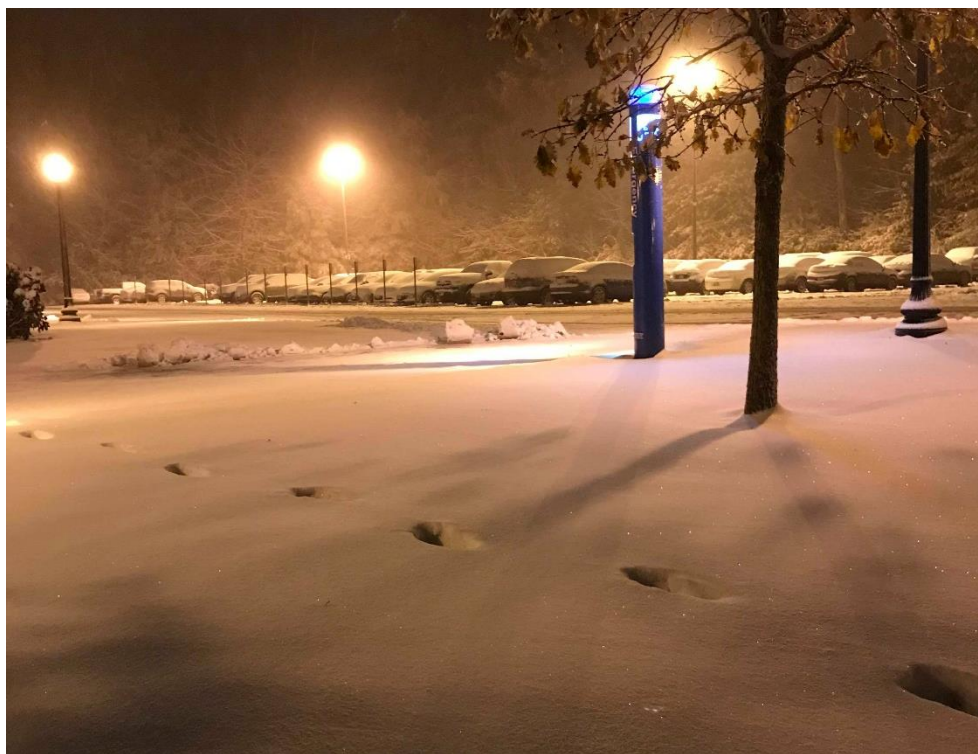


## はじめに

ハロウィンが終わり11月の1週目にインディアナ州テレホートではマイナス14度を記録し雪が積もり、秋の終わりを感ぜずに冬へと変わった。深呼吸をすると鼻と肺が痛い。そんな中、11月はいつものたくさんの課題に加え、すべての学科でファイナルやプレゼンテーションも行われるため夜中になってもキャンパス中には学生で溢れていた。



学生寮玄関前にある駐車場の様子

## 授業

英語のクラスでは、チームプロジェクトのファイナルプレゼンテーションが行われた。私のチームは、機械・情報・電気工学の分野から、校内にある学生用の郵便ポストの鍵の電子化を提案した。英語でのプレゼンテーションに慣れるためでなく、専門用語をどのように説明するのかをこのプレゼンテーションで学ぶことができた。高い評価をもらったことで、英語力の成長を感じた。信号処理の授業でも、プレゼンテーションが行われた。私は Wavelet transform というのは、他の変換方式と比べての利点があり、どんなことに使われるのか、Fourier Transform との数学的な関係性についてプレゼンを行った。内容はすべて専門用語でできていて、かつネイティブを相手に行われたため、発音の確認にもかなり時間を費やした。プレゼンテーションの評価は良かったが、あまり調べることに時間を費やせていなかったことが心残りとなった。この分野には興味があり、もっと深く理解したかったが、他のクラスの課題やプロジェクトで十分に調査できなかったため、この失敗を冬学期に生かしたい。

秋学期の最終週はファイナルウィークであった。他の学生に「今週はファイナルだね」と言うと、「ファイナルテストはチームプロジェクト(プレゼンテーション)と違って勉強するだけだから気楽だよ」と多くの学生が口を揃えて言う。確かにチームプロジェクトは、お互いのスケジュールを合わせて、プレゼンテーションまでにどこまで深く掘り下げるかを決め、かつ発表の練習をしなければならないため、時間も精神も削られる(ちなみに発表はデモンストレーションであるため、発表中にほかの生徒や先生が無限に質問してくる。そのため自分が発表する分野の理解が必要となる)。私は英語のファイナルが2つあった。ライティングでは、ある問題に対して短いエッセイを書いた。学期のはじめと比べると、アウトラインの構成の仕方や各段落に必要な要素を迷わずに書けるようになった。リスニングでは、英語の速さに慣れることができたが、なじみのない慣用表現を連続で使われると未だに困惑してしまうため、時間を見つけてはそれらを勉強している。リーディング力は、留学前と比べるとかなり良くなったと感じている。文法を勉強し直したからという理由もあるが、一番の理由はトピックを把握することができるようになったことだと思っている。この読み方はこれからも続けていきたい。

### イベント

秋学期が終わり、わたしはこの秋休み(Fall break)の間、シカゴにある友達のルームメイトの実家に泊まらせてもらった。シカゴはインディアナよりも緯度が高く、かつ内陸に位置しているため気温がかなり下がる。かなり寒いが訪れたことがない土地に来たという環境の変化を実感できるためこの寒さは嫌いではない。シカゴの建物は日本と比べてヨーロッパ風の石灰岩でできた建物が多く、どこを歩いていても飽きない。この時期は、Thanksgivingとクリスマスが近づいていたため、どこのお店も人でいっぱいだった。シカゴはこれまで行った都市の中でかなり大きく、こういった発展した都市を見るたびにアメリカの経済の大きさを実感すると同時に気が引き締まる。



シカゴのダウンタウンの街並み

## さいごに

秋学期が終わったが、未だに学期が終わった実感がなく、時間があると「なにか課題あったっけ」とスケジュールをチェックしてしまう。この秋学期は新しい環境に慣れることによりかなり時間がかかった。また、信号処理の授業では新しい用語が日々出ていたのでかなり苦労した。しかし、授業の内容には満足しており、Signal とはなにかという基本的なことからどんなフィルタや変換方式があり、それらにはどんな特徴が備わっていてどんな時に使われるのか知ることができた。この分野は次の学期でも引き続き学ぶつもりだ。概念だけでなく、実践的、数学的な部分を理解することに努める。その他に研究に関する論文を読む回数を増やすことで最低限自分の専門領域のことについて書いてあるものは抵抗なく読めて理解できるようにすることも一つの目標である。